令和4年度 第2回中央区成年後見制度利用促進審議会 会議記録

●日時：令和5年3月13日（月）午後6時30分～8時00分

●場所：社会福祉協議会3階会議室

●出席者：【委員】12名

委員長 宮崎 牧子（大正大学社会共生学部教授）
副委員長 相原 佳子（野田記念法律事務所）
竹見 敏彦（中央区医師会）
安藤 博規（東京弁護士会）
安井 正登（成年後見センター・リーガルサポート東京支部）
東 早苗（東京社会福祉士会）
前場 京子（中央区心身障害児者の進路と生活を考える会）
小笠原 宣夫（中央区民生・児童委員協議会）
保田 奈奈（日本橋おとしより相談センター）
井上 一雄（中央区社会福祉協議会在宅福祉サービス部長）
田中 智彦（福祉保健部長）
北澤 千恵子（高齢者施策推進室長）

〈欠席者〉島田 有三（基幹相談支援センター）

【事務局幹事】

植木 清美（福祉保健部管理課長）
石井 操（福祉保健部生活支援課長）
岡田 純（福祉保健部障害者福祉課長）
早川 紀行（福祉保健部高齢者福祉課長）
阿部 志穂（福祉保健部介護保険課長）
山田 英子（中央区社会福祉協議会成年後見支援センター「すてっぷ中央」所長）

〈欠席者〉武田 知子（福祉保健部健康推進課長）

（敬称略：順不同）

●傍聴人：0名

●議事次第

- 1 開 会
- 2 委員の交代について
- 3 議 題
 - (1) 令和4年度の成年後見制度の利用促進に係る施策及び取組の進捗状況の点検・評価について
 - (2) 「中央区高齢者の生活実態調査」及び「中央区障害者（児）実態調査」の報告について
 - (3) 令和5年度事業内容について
- 4 閉 会

●配布資料

- 資料 1 令和 4 年度中央区成年後見制度利用促進事業報告（案）
- 資料 2 - 1 中央区高齢者の生活実態調査報告書（案）一部抜粋
- 資料 2 - 2 中央区障害者（児）実態調査報告書（案）一部抜粋
- 資料 3 令和 5 年度事業内容について
- 資料 4 意見票 ※当日配布
- 参考資料 1 中央区成年後見制度利用促進審議会委員名簿
- 参考資料 2 中央区成年後見制度利用促進審議会座席表

次第	発言者	議事の状況又は発言内容
1 開会	宮崎委員長	開会のあいさつ
2 委員の交代について	宮崎委員長	委員の交代について報告を求める。
	植木管理課長	新任委員の紹介
	宮崎委員長	委員の出席状況について報告を求める。
	植木管理課長	委員の出席状況について報告
(会議の公開、傍聴、議事録の作成)	宮崎委員長	会議の公開、傍聴、議事録の作成について説明を求める。
	植木管理課長	会議の公開、傍聴、議事録の作成について説明
	宮崎委員長	傍聴希望の有無について報告を求める。
(配布資料の確認)	植木管理課長	傍聴希望なしの旨を報告 配布資料を確認
3 議題 (1) 令和4年度の成年後見制度の利用促進に係る施策及び取組の進捗状況の点検・評価について	宮崎委員長	議題(1) 令和4年度の成年後見制度の利用促進に係る施策及び取組の進捗状況の点検・評価について説明を求める。
	植木管理課長	資料1について説明
	宮崎委員長	今の説明について質問、意見はあるか。

相原委員	<p>令和4年度も様々な講座を実施しているようだが、参加者は本人の問題意識から参加しているのか、親族に対する問題意識から参加しているのか、アンケートなどで把握しているか。</p> <p>また、中央区の住宅の特性として、高層マンションや一戸建ての独居の方など、いろいろな特性があるが、講座参加者の特性の傾向を教えていただきたい。</p>
宮崎委員長	事務局、いかがか。
山田所長	<p>本区の傾向としては親族に対する問題意識から参加される方が多い。時折、自分の将来のために参加される方もいる。</p> <p>また、講座の参加者の住宅の特性まではアンケートで確認していないので不明だが、「すてっぷ中央」が日常的に相談を受けている方は高層マンションに住んでいる方が多い印象である。</p>
宮崎委員長	そのほか、いかがか。
安井委員	<p>21ページの法人後見実施団体との連携について、区外の法人後見実施団体のことを教えていただきたい。</p> <p>また、「当該団体と連携して支援方針の検討などを行いました。」とあるが、具体的にどういう検討がされたか教えていただきたい。</p>
山田所長	<p>現在、連携をとっている法人後見実施団体は、権利擁護支援地域関係者ネットワーク連絡会でも関わりのある家庭問題情報センターと民事法務協会成年後見東京センターである。</p> <p>また、法人後見実施団体との連携については、精神障害者のケースで、本人と法人後見実施団体との間でなかなか意見がかみ合わないケースがある。法人後見実施団体は後見人として、本人の少ない財産の中でやりくりをしなければならず、本人はなかなか希望をかなえてもらえないと憤りを感じている。</p> <p>両者がかみ合わない部分で、「すてっぷ中央」が間に入って、本人にお金の使い方などのアドバイスをしたり、法人後見実施団体が直接伝えにくいことを本人に伝えたり、本人の意向を法人後見実施団体に伝えたりするなどの対応をしている。</p>
宮崎委員	そのほか、いかがか。

長

竹見委員 今年度は出前講座などを多く実施していて、先ほども参加者の特性について質問があったと思う。私は認知症や精神障害などの診断に関わる立場にあるが、それぞれの講習会や講演会、出前講座の参加者の意見やアンケートの中で、医師の診断や医療機関への困りごとや要望があったら教えていただきたい。

山田所長 医師の診断や医療機関への困りごとや要望は、現在、把握できていない。

竹見委員 個人の診療所でも診断書について相談されることが年に何件かあるので、もっと早い段階でお困りの方がいるのではと思い質問した。

井上委員 補足として、講習会や講座に参加した方のアンケートで、名前、住所等を記載された方については、広報や講演会等の案内を送るなど、できるだけ継続してコミュニケーションを取るようになっている。

その中で、竹見委員の話にあった医療機関などへの困りごとや要望など、いろいろな話も出てくると思うので、一過性の支援で終わることなく、きめ細かなサービスをこちらから提供できるようにしたいと考えている。

宮崎委員 そのほか、いかがか。
長

保田委員 竹見委員の質問について、私は日頃から認知症の方やその家族と関わっているが、成年後見申立てをしようとしている方がいて、医師の診断書が必要になったときに、かかりつけ医に相談したところ、判断ができないので診断書を書いてくれないことがある。そのため、わざわざ認知症の専門医を受診する必要があり、なかなかスムーズに進まない。

また、家族が本人の了解を得ずに成年後見申立てをしようしたり、みんなの意向が揃っていないのに、家族の中で1人で成年後見申立てを進めようとする方もいるので、家族の意見をまとめるのはおとしより相談センターにやってほしいと医師会から言われている。

宮崎委員
長

竹見委員、いかがか。

竹見委員

この会議は成年後見制度の利用促進に向けた会だが、保田委員が言ったように、成年後見制度を理解せずに、銀行からお金を引き出すために、成年後見制度を利用しようとする方もいる。成年後見申立てが本人の利益になるのか、家族の利益になるのか分からないこともあり、ほかの支援方法のほうが適切な場合もある。日頃から何年も診ている人だったら分かるが、初診の方に対して、成年後見制度の利用がどれだけ適切なのか診断することは、医師としても踏み込みにくい。

そのため、制度を理解せずに利用しようとする方がいる場合などには、「すてっぷ中央」に連絡するように勧めている。

本当に成年後見制度の利用が本人にとっても、家族にとっても一番適切であればいいが、成年後見制度を利用して後見人がついたことで、逆に制限されることもある。そこを理解して、成年後見制度を利用する必要がある。

宮崎委員
長

そのほか、いかがか。

相原委員

竹見委員の話に補足すると、そもそも成年後見制度の利用が適切かどうかは非常に悩ましいところで、国では現在進行形で審議がされている。一度、後見になってしまうと症状が回復しない限り延々に続き、定期報告も必要となる。本当に成年後見制度が現状の制度でいいのか議論されている。もっとピンポイントで、一定の案件だけを後見として、代理権を付与する形でもいいと思う。親族からしたら、専門職が後見人になると、報酬を延々と払う必要があり、成年後見人として活動されている安井委員、安藤委員も非常に悩ましいところがあると思う。

現在進行形でそのような議論がされているので、今の竹見委員、保田委員の話は、必要最小限で適切な支援ができる制度に変わっていく過渡期だと思う。

宮崎委員
長

そのほか、いかがか。

安藤委員	<p>本報告書を見て、講座が充実していくことが、成年後見制度の利用促進につながると考える。</p> <p>私は精神障害の方に支援をすることが多い社会福祉士、精神保健福祉士のうち、権利擁護支援地域関係者ネットワーク連絡会に、精神保健福祉士協会が入っていないことに関心がある。</p> <p>例えば、医療保護入院を繰り返す重度の精神障害の方がいて、薬を飲んでいれば普通にコミュニケーションを取れるが、薬をやめると不穏になり、結局入院してしまうケースがある。精神障害者の方のケアを考えると、成年後見制度の利用も支援の一つであり、その他の福祉的な支援制度の利用もある。精神保健福祉士は社会福祉士と兼ねている方も多く、中央区でどれだけニーズがあるかわからないが、精神保健福祉士協会も権利擁護支援地域関係者ネットワーク連絡会に参加してもいいと思う。</p> <p>また、先ほど代理権の話があったが、一度後見を開始したら、預金を全て管理されて、自分の好きなようにお金が使えないなど、大きな制限がかかる。保佐であっても代理権が付与されたら同じで、やめたいと言っても、1度代理権がついたら保佐人はやめられないためなかなか難しい。</p> <p>相原委員が言ったように、後見制度に限らず、どういう形で支援をしていくか考える必要がある。</p>
宮崎委員長	そのほか、いかがか。
東委員	<p>安藤委員の話にあった代理権について、精神障害の方が成年後見制度を利用すると、保佐人がつくことが多く、保佐人には代理権はある。私が保佐人になった場合は必要なときだけ支援をしている。例えば、病院から退院するために保佐人がついた場合、本人が望まないときはあまり関わらず、本当に必要なときに対応している。代理権がついたら、必ず代理をしなければいけないというわけではないと思う。</p>
宮崎委員長	そのほか、いかがか。
小笠原委員	<p>私は民生委員3期目になるが、1件だけ成年後見制度のことを聞かれたことがあった。ほとんど知らなかったので、おとしより相談センターに相談してとしか言えなかった。思い出してみると、</p>

知り合いの方を後見人にしたい、古くからの友達でお金に困ってなさそうだからと話をされていた。相談対応は色々とケース・バイ・ケースだと思うので、大変難しいと思う。

宮崎委員長

民生委員がおとしより相談センターや「すてっぷ中央」などの相談支援機関を紹介するだけでも、すごく重要な活動になっていると思う。難しいことを覚えなさいといけないとなると、民生委員も荷が重くなってしまうので、民生委員の方々にはぜひ相談支援機関につなげていただくところを頑張ってもらい、つないだ後は専門職が対応すればいい。

そのほか、いかがか。

前場委員

先ほど精神障害の方の話があったが、精神障害の方だとある程度は本人の意思で行動できるが、知的障害の方の場合は本人の意思での行動が難しく、どうしても親族にまかせないといけないことがある。それが本人にとっていいことなのか模索しながら関わるのはどこの家庭でも同じで、知的障害の方の場合は成年後見制度を利用するのはとても難しいといつも感じている。

また、普及・啓発についても、成年後見制度を知ってもらうことはとても大事で、たくさん普及・啓発活動をしているのは分かるが、成年後見制度は文字だけ見ると、とても難しい内容として受け止める方が多いので、もう少し平仮名でわかりやすく説明していただけたら、もう少し気軽に講座に参加できると思う。

宮崎委員長

事務局いかがか。

山田所長

障害者福祉団体から出前講座の依頼があり、今年度、2回出前講座を行ったが、障害の方の困り事が多岐にわたっていて、個々のケースで対応の仕方が変わるため、出前講座の中では少しでも興味のある方がいたら「すてっぷ中央」へ連絡くださいと案内をしていた。

個人のお宅や皆さんの集まる場にも訪問できる旨、今回の出前講座の中でも伝えたが、その後の相談につながらないのは課題だと感じている。個別の相談につながるような講座の仕方を今後も検討していきたいと思う。

また、7月にさわやかワーク中央という、障害の方の作業所施設からも出前講座の依頼があった。その際は、利用者にも理解で

きるような文言で、平仮名を使ったわかりやすい資料も用意して出前講座を行った。もし平仮名の資料のほうが理解しやすい、分かりやすいということであれば、工夫をして資料づくり、講座を行いたいと思うので、ご希望、意見などあれば、「すてっぷ中央」までご連絡ください。

植木管理
課長

報告書の7ページに記載がある成年後見支援センター講演会については、参加しやすいようにテーマを「あなたらしい老後を過ごすために～自分で決める自分の未来 相続・遺言と任意後見制度」としたところ61名の方が参加された。成年後見制度の利用を考えている方には、9ページの成年後見申立講座のような講座に参加してもらうなど、はじめは分かりやすく、皆さんが興味をもちやすい内容で、普及・啓発していく。

宮崎委員
長

そのほかいかがか。
認知症カフェや老人クラブなどで、成年後見制度についての講座を行う機会は設けているのか。

山田所長

今年度は敬老館から出前講座の依頼があり、敬老館に通う高齢者向けに成年後見制度や権利擁護支援事業の説明をした。

井上委員

高齢者施設への出前講座もずっと行きたいと思っていたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、行くことができなかった。施設の職員、利用者どちらにも制度について説明したいので、機会があれば、「すてっぷ中央」から出向いていきたいと考えている。

宮崎委員
長

そのほかいかがか。

(意見なし)

宮崎委員
長

では、皆様からのご意見なども踏まえて、私から24ページの総括をまとめさせていただく。

令和4年度の成年後見制度の利用促進に関わる施策、取組の進捗状況はおおむね順調に進んでいる。今年度は特に地域連携ネットワークの活用が進んだ。また、関係機関同士の顔が見える関係づくりを継続して行っているため、次年度に生かしていけるところはよかった。権利擁護支援地域関係者ネットワーク連絡会を通じて課題が見えてきているので、その課題について令和5年度に

		<p>検討していく必要がある。</p> <p>また、竹見委員からの意見にもあったが、医師との連携はなかなか難しいところであるが、おとしより相談センターと地域のクリニックの先生方で少しずつ顔の見える関係がつくられるなど、専門職同士のつながりが少しずつできてくると思う。そのようなことが地域で成年後見制度の利用促進へ前進するための一歩になると思う。</p> <p>知的障害の方でも分かりやすく、成年後見制度のことを理解できるような講座や説明などについて検討していく必要がある。知的障害の方は理解できないと思って、説明をしない傾向が社会の中にあるので、どうやったら理解できるか、令和5年度では検討してほしい。</p> <p>皆様から出た意見を24ページの中央区成年後見制度利用促進審議会の点検・評価に記載する。</p> <p>反映する記載内容は事務局に作成してもらい、確認は、委員長の私に一任ということでよいか。</p> <p>(異議なし)</p>
(2) 「中央区高齢者の生活実態調査」及び「中央区障害者(児)実態調査」の報告について	宮崎委員長	では、そのようにさせていただく。
	宮崎委員長	議題(2)「中央区高齢者の生活実態調査」及び「中央区障害者(児)実態調査」の報告について説明を求める。
	阿部介護保険課長	資料2-1について説明
	岡田障害者福祉課長	資料2-2について説明
	宮崎委員長	今の説明について、ご質問、ご意見はあるか。
	竹見委員	調査に回答するのは本人に限るのか。
	岡田障害者福祉課	障害者(児)実態調査から説明する。 調査票を送る時に、通知文、調査票の書き方も一緒に同封して

長	おり、原則、本人が答えるように記載しているが、本人が書けない場合には、本人の意思を代わりに書ける方が回答するように説明をしている。
阿部介護 保険課長	高齢者の生活実態調査についても同様で、本人が回答するように記載しているが、本人が書けない場合には、家族や支援者が手伝うなど、本人の立場に立って代わりに回答するように説明している。
竹見委員	<p>コミュニケーションは取れるが、手が不自由で本人の手では回答ができないため、家族や介護者が回答を手伝う場合もあれば、重度意識障害や高次機能障害、認知機能の低下、知的障害などにより本人が意思を示せないため、一番近しい介護者が本人の意思を押し量って回答する場合もあるということか。</p> <p>近しい介護者というのはかなり本人と向き合っており、そのような大変な看病をしている方々からの回答には、殊に向き合わないといけないと思う。今回の調査結果からその部分を抜粋してまとめることはできるのか伺いたい。</p>
宮崎委員 長	事務局いかがか。
阿部介護 保険課長	本人が書いたのか、家族が書いたのかまでは分からないので、難しい。
竹見委員	症状が重度の方ほど、近しい介護者が本人の意思を押し量って回答しており、本当に真実味のある意見や回答が多いと思う。
岡田障害 者福祉課 長	<p>障害者（児）実態調査について回答する。</p> <p>本調査では誰が回答したかという設問を設けており、資料にはないが、身体障害の方と精神障害の方の約7割以上は本人が書いている。知的障害の方だと、約4割は本人が書いており、約5割は親が書いているという状況である。</p>
阿部介護 保険課長	回答を訂正する。調査票を確認したところ、誰が調査票を記入したか回答者がわかるようになっている。また、要介護度を回答する設問もあるので、それごとに集計して出すことは可能だと思う。

宮崎委員長	<p>そのほかいかがか。</p> <p>資料２－１の４ページ「利用したいとは思わない理由」で、「家族（親・親族）がまだ元気だから」という回答の割合が高い。老々のどちらかの配偶者がまだ元気なのか、それとも子供は年齢が若いからなのかなど、クロス集計はができるのか。</p>
阿部介護保険課長	<p>本日、調査結果の一覧を持っていないので申し訳ないが、８０歳までだと配偶者が介護するという方が多かったと記憶している。さらに年齢があがると、子が介護するという方が多かった。</p>
宮崎委員長	<p>同じように障害者（児）実態調査で、資料２－２の６ページの「成年後見を利用したいと思わない」理由を見ると、「家族（親・親族）がまだ元気だから」が、身体・難病の方で５８．２％、知的障害の方で５８．８％、精神障害の方で３４．６％となっており、かなり精神障害の方は家族とも疎遠になっていることから、親や親族にお願いできないのではないかと思われる。事務局は今後調査結果をどのように活用する予定か。</p>
岡田障害者福祉課長	<p>今後、調査結果を細部まで分析して、来年度の計画改定に調査結果を反映させようと考えている。</p> <p>資料２－２の５ページに、「利用したいとは思わない」方と、家族の介助者の年齢をクロス集計して表があり、身体障害の方だと、６０歳以上の方では「利用したいとは思わない」という方が４０人、３６．７％であり、知的障害の方だと、６０歳以上の方が８名いて、１９．５％になる。精神障害の方だと、多いところで４０・５０歳代が２４人で、２５．８％となっているので、比較的、精神障害の方のほうが介助者の年齢は若いという印象を受けている。</p> <p>一方で、知的障害の方だと６０歳以上の方が多いという状況になっており、こういったところも含めて、今後分析していきたいと考えている。</p>
宮崎委員長	<p>そのほかいかがか。</p>
安藤委員	<p>資料２－１の４ページの「利用したいと思わない理由」で、「他人に生活やお金の管理をしてほしくないから」というのが２番目に挙がっているが、ここでいう他人というのは自分以外の者を指</p>

(3) 令和5年度事業内容について

	すのか、家族は除いているのか、事前に明確に区別されていたのか。家族だったら管理してもらってもいい人もいるかもしれない。
宮崎委員長	事務局いかがか。
阿部介護保険課長	設問の中で明確には書いていないが、他の選択肢に「家族（親や親族）がまだ元気だから」があるので、通常は親族でない他人に管理してほしくないという意味で捉えていると考える。
安藤委員	赤の他人ではなく家族に任せたい、自分の家族に自分の老後のお金の管理のことを任せてもいいと思っている方であれば、任意後見制度など他のニーズにつながる可能性があると思う。調査の聞き方の問題かもしれないが、選択肢を工夫したら違う回答が出てくると思う。
宮崎委員長	事務局いかがか。
阿部介護保険課長	3年後になるが、そのときに検討したいと思う。
宮崎委員長	議題(3) 令和5年度事業内容について説明を求める。
植木管理課長	資料3について説明
宮崎委員長	今の説明について、意見、質問はあるか。 (意見なし)
宮崎委員長	それでは、最後に事務局から連絡事項等があればお願いしたい。
植木管理課長	会議の時間内に発言できなかったご意見については、お手元の資料4に記載の上、3月22日水曜日までに事務局まで郵送、メール、ファクスなどでご提出ください。

4 閉会

宮崎委員
長

また、次の審議会については令和5年5月を予定している。開催日の1か月ほど前に開催のご通知をお送りする。

閉会の挨拶